

IoT 設備は賃貸住宅の 空室対策に効果的

監修：ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社 IoT 事業部

事業推進部 課長 工学博士 横沢信幸

IoT設備はモノとインターネットつなぐ

IoT（アイオーティー）とは、Internet of Thingsの略。直訳すると「モノのインターネット」となります。つまり、従来はコンピュータとコンピュータが結ばれていたインターネットが、さまざまなモノと繋がることを意味しています。例えば、テレビやエアコン、照明や鍵などがインターネット経由で操作できるようになるわけです。最近テレビCMでみかける、「ハイ〇〇、テレビつけて」と卓上の機器に呼びかける、あの仕組みもIoTの一つと言えるでしょう。



IoT設備は賃貸住宅にも導入されつつある

IoTの仕組みを積極的に住宅に活かしたものが、IoT住宅と呼ばれるものになります。

外出先からエアコンを操作したい。スマートフォンを玄関の鍵代わりに使いたい。テレビの録画予約を外から行いたい。照明のスイッチも外から操作したい。など、暮らしをより便利にすることができます。

最近では入居者募集のキャンペーンで、賃貸管理者が卓上設置型のIoT設備をプレゼントする企画も目にす

るほど、一般の方に認知されています。

特に若い世代に受け入れられているこのIoTは、少しずつ賃貸住宅に導入されつつあります。照明やエアコンの消し忘れなどによる省エネ性が期待できることや、高齢者やお子様、さらにペットの見守りができるなど、IoT住宅には様々な可能性があります。特に一人暮らしで忙しい入居者や、より新しい利便性を求める入居者にとって益々期待される設備です。

IoT 設備賃貸住宅導入の詳しい内容は裏面で

不動産のご相談は
当社まで

手軽に導入できるシーリングライト型 IoT 設備

ソニーが開発したIoTシーリングライト

ドーナツ状の「シーリングライト」と中央に取り付ける各種センサーや赤外線を搭載した「マルチファンクションユニット」を組み合わせ、多彩な機能をご使用頂けるユニークな照明器具です。

マルチファンクションライトを設置するだけで、家の外からテレビ、エアコンや照明をコントロールでき、電気の消し忘れ防止や、帰宅前の空調設定ができます。話題のAIスピーカー（Google Home, Amazon Alexa）とも連携。声で家電を操作でき、リモコンを探す手間が省けます。スピーカーがマルチファンクションユニット本体に内蔵されているため、音楽もパワフルな音で楽しめます。

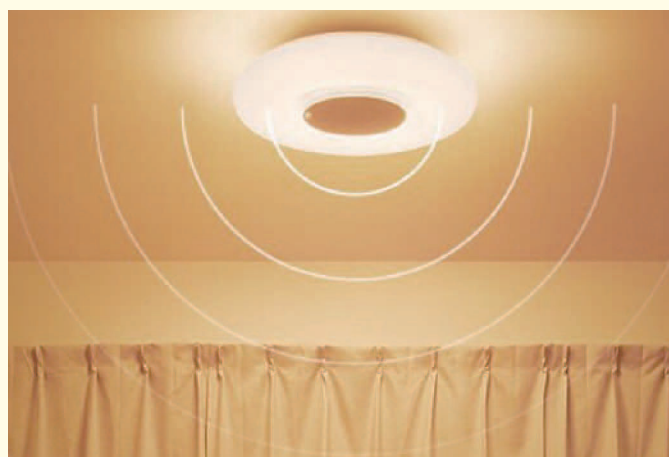
用途はますます広がっていきます

寝室にいなからリビングの照明を消すことも、家の外から帰宅前にリビングの照明をつけることもでき、毎日のちょっとしたひと手間をより便利で快適にしてくれます。

さらに部屋の温度や湿度や明るさの変化をいつでもどこでも知ることができます。愛するペットや高齢の両親の安心のために、お部屋の状況を24時間分モニタリングできます。

導入コスト低く手間もかからない

マルチファンクションライトの価格は1台4万円ほどで、通常のシーリングライトと同じように天井に取り付けるだけです。導入された賃貸住宅では、自社調べでは2000円ほど家賃を上げられたという実績もあります。コストも手間もかからない手軽な空室対策として、入居者に喜ばれるアイテムです。



今回掲載したソニーのファンクションライトのホームページはこちらのQRコードで



「住もう」に、
寄りそう。

For perfect
estate management.



（一社）全国賃貸不動産管理業協会（通称：全宅管理）は、全宅連を母体として設立された賃貸管理業界最大の会員数を有する団体です。全宅管理では、賃貸管理業の適正化や標準化を図り、業界の健全な発達に寄与することを目的とした各種事業を行っています。

ホームページはこちらから検索

全宅管理 検索 
<http://www.chinkan.jp/>